

国際CIO学会 第6回世界大会に参加して(活動報告)

学会常任理事 加藤陽一
(日本アイ・ビー・エム株式会社 パートナー)

去る10月6日から7日にフィリピンの首都マニラにある名門私立大学 De La Salle(デ・ラ・サール)大学で開催された当学会の世界大会に初めて参加しましたので、その概要と感想を報告します。

テーマは” Innovative ICT, CIO, and Natural Disasters”ということで、自然災害からの復旧・復興に関する各国の革新的なICTの活用やCIOの取り組みに関する講演およびパネルディスカッションが2日間に渡り行われました。開催国のフィリピンを筆頭に中国、マカオ、タイ、ベトナム、インドネシア、シンガポール、インドのアジア各国に加えアメリカ、ロシアから参加があり、まさに世界大会にふさわしい顔ぶれとなりました。

日本からは当学会の代表として神岡会長、小尾副会長(IAC 世界連合会長)、座間専務理事のほか講師およびパネリストとして富士通の浜場常務、総務省の寺村課長補佐、双日株式会社の赤司CIO補佐、早稲田大学の岩崎先生と私が参加し、この他、関係者を含め総勢20名程で、主催国に次ぐ規模でした。アジェンダの詳細は割愛しますが、講演やパネルディスカッション、および懇親会での各国参加者との交流を通して特に印象残ったことや感想を述べます。

今大会の内容の中心は近年、世界各地で頻発している大規模な自然災害への各国の対応状況に関するものでした。特にタイやフィリピンでは台風による洪水や火山性の地震による災害が多く、国が専門機関を設置し、ICTを積極的に活用した防災への取り組み状況の紹介がありました。その内容は日本とも共通点が多く、国家間の協力の余地も大きいと感じました。私たち日本からの参加者も東日本大震災後の復旧・復興活動の経験から得た知見を発表し、参加者から高い関心を持って聞いていただくことができました。もうひとつの主題がCIOの役割と教育そして電子政府の取り組みに関するものであり、マカオの国連大学における行政機関と民間機関のCIOの役割の共通点と相違点の整理および、求められる能力・スキル、それを身につけるための教育プログラムの内容は大いに参考になるものでした。同様な取り組みはロシアやシンガポールでも政府として力を入れており、電子政府先進国であるシンガポール政府のCIOが省庁横断での業務とシステムの最適化に取り組んでいる経験談は行政におけるCIOのロールモデルであり、日本でも早く取り入れるべきと感じました。

また、当大会の準備、運営をしてくださったDe La Salle大学の教職員、学生のみなさんの対応はとて行き届いたものであり、笑顔が印象的で気持ちよく2日間の大会期間を過ごすことができました。次回は来年5月にロシアのモスクワで開催される予定ですが、ぜひ参加したいと思っています。



写真1. パネルディスカッションの様子



写真2. 登壇者の集合写真